

藝文懐だより

第60号

令和5年9月25日

発行者

習志野市芸術文化協会

会長 中谷 時男

編集長 小笠原仁仙

◆習志野市芸術文化協会／広報◆

題字 吉原 聚堂



第39回芸術祭 チャリティーバザー

地域の芸術文化

習志野市芸術文化協会 会長

中谷 時男



千葉県芸術文化団体協議会の令和五年度第一回理事会及び情報交流会が青葉の森公園芸術文化ホールで開催され、出席してきました。

千葉県下、約三〇団体の交流会であり、それぞれ各地区の文化事業の報告、計画が話されました。短い時間でありましたが、団体の熱意が感じられました。

私たちが習志野市芸術文化協会は所属団体一〇〇、会員四〇〇〇の極めて大きな組織であり、いまままで十分な活動と成果をあげてきております。

これは習志野市の強い支援とともに文化ホールの存在が大きく、他の市町村の協会にも認知されています。

隣の席の市川市の音楽協会の役員の方や、佐倉の皆様には、これから音楽ホールの借用等でお世話になる由、お願いいたしました。

文化ホールでの発表、上演を基に活動してきた団体には、これから難しい対応となりますが、できるだけ市内の施設の利

用を考えていきたいと思えます。

習志野文化ホールの再建設は令和十三年竣工といわれています。その時には、現在、展示施設としても使用されている、モリシア四階ホールも併設されることを願っています。

先日、茨城県筑西市の「しもだて美術館」で開催された「秋山静一青の世界展」を鑑賞してきました。秋山静一は、私の所属する美術団体新構造社の先輩で、世界版画展で大賞を受賞した版画家であり、地元の下館市の所蔵品展の企画であります。

「しもだて美術館」は、二〇年も前に下館市の施設として建設され、企画展の他、別の展示室では地元作家、森田茂・笹野弘等の油彩画も展示され、三階の美術館の他、二階はコミュニケーションルーム、一階には日本近代陶芸の祖である板谷波山の作品や、日本最大の二子を越える大神輿の展示等、多くの文化財が保管されています。

今、筑西市は人口約十万人、文化協会や美術会も無いが、町には多くの文化施設が実在し、文化の香りの強い町であります。

芸文協だより 30年史

題字 吉原 聚堂

令和五年度 通常総会開催される

令和五年五月十六日(火)モリシア四階多目的ホールにて令和五年度通常総会が開催され、次のおり全員一致で可決承認されました。

提案議事

- 一、令和四年度事業報告及び決算報告
 - 二、令和四年度監査報告
 - 三、令和五年度事業計画及び収支予算案
 - 四、その他
- 令和五年度運営委員の確認と紹介、後援申請・承認の報告、以上滞りなく本年度総会を無事終了

令和五年度 事業報告と予定

- 第三十九回芸術祭
- 習志野市民ホール 四月十六日(日) アロハフエステイバルin 習志野
 - モリシアホール 四月十四日(金)～十六日(日) 絵画展・書道展・陶芸展 蒐集展・和紙ちぎり絵 茶道・華道展
 - モリシア津田沼センターコート 五月十三日(土)・十四日(日) 習陶会チャリティーバザー
- 令和五年度通常総会
五月十六日(火)
市民まつり参加
十月八日(日)
第三十回記念習志野市美術展覧会
九月十四日(木)～二十四日(日)

芸文協だより発行

令和五年度市民文化祭

- 習志野市民ホール 十一月四日(土) 第五十三回市民音楽祭 十一月五日(日) 民謡民舞大会
- 十一月十一日(土) 習志野市三曲協会演奏会 十一月十九日(日) お囃子大会
- 十一月二十三日(木祝) 習志野市詩吟連盟文化祭 十一月二十五日(金) 布施園慶友の会追悼演奏会
- モリシアホール 十一月三日(金)～五日(日) あとりえ菊田・習美会絵画展 華道展・お茶席・陶芸展
- サンロード 十一月三日(金) 習志野市民俳句大会 十一月四日(土) 第四十二回短歌大会
- 視察研修(群馬方面) 十一月十六日(木) 富岡製糸場 こんにやくパーク 群馬県立近代美術館
- 歳末チャリティーバザー 十二月二日(土)・三日(日) 十二月二日(土)・三日(日) 習志野第九演奏会
- 市川市文化会館 十二月二十四日(日) 十二月二十四日(日)
- 新年会員交流会 ○ホテルグリーンタワー幕張 令和六年一月十五日(月)

着任の挨拶



習志野市教育委員会 生涯学習部次長 芹澤 佐知子
四月に生涯学習部の次長を拝命いたしました。生涯

学習部が所管する文化・芸術・スポーツの施策は、人間の心を揺さぶり、生きる喜びや深い気づきをもたらすもので、以前から憧れていました。今、本市の文化芸術施策における大きな課題のひとつは、習志野文化ホールが令和五年三月末をもって閉館を迎えたことです。これに伴い、当ホールで開催されていた諸行事を安定的に継続できる環境をつくる必要があります。

改めて初心に返り、貴協会の皆様のお力添えをいただきながら、これまで本市が築き上げてきた文化芸術の灯を絶やさすことなく、更なる発展につなげていくことに力を尽くしたいと思っております。知恵と工夫を積み重ね、習志野市の文化振興に努めてまいります。どうぞよろしくお願いたします。

就任の挨拶

生涯学習部 社会教育課 振興係係長 鶴岡 奈々
社会教育課文化振興係長を



右から 村上 友規 野田 佐代子 鶴岡 奈々 久村 悠花

令和五年度 入会団体

ちば室内管弦楽団(音楽連盟)

令和四年度 退会団体

one o'clock glee (音楽協会連盟)

- ・歌謡&シャンソン (音楽協会連盟)
- ・歌謡&シャンソン連盟 (歌謡&シャンソン)
- ・ららぽーと歌謡&シャンソン (歌謡&シャンソン連盟)
- ・近藤秀男音楽事務所 (歌謡&シャンソン連盟)
- ・この指とまれ (歌謡&シャンソン連盟)
- ・秀典美会 (民謡民舞連盟)
- ・なでしこ会 (華道連盟)

令和五年度 交代運営委員

- 音楽協会連盟 旧 海老原 幸作 新 南部 勝子
- 茶道連盟 旧 宮崎 宗雅 新 内藤 宗庵
- 工芸連盟 旧 白石 治 新 原 信武
- 民謡民舞連盟 旧 金子 竹千 新 古谷 忍

芸文協だより第一号表紙(平成六年八月発行)



第1号 H.6.8.10

芸文協だより

今回因らずも芸術文化協会長に選出されました詩吟舞協会の伊藤でございます。これまでの歴代会長初め役員の方々のご尽力と会員各位のご協力のもと二十一年に及ぶ文化活動に深甚なる感謝と敬意を表する次第であります。

昨年来の懸案であったサークル部門の方々と連携が出来、文化協会から芸術文化協会へと組織の拡大が図られ、また今年六月一日付で市当局から事務所の提供を受け、内容の充実が図られ身が引き締まる思いであります。二十一世紀に向け「新しい文化と伝統芸術を守る文化」、この異なる文化の調和と発展を図る事が私どもの責務であり、この事を通して地域社会への貢献と新しい町づくりの環境としてお手伝いが出来れば幸いです。ご理解とご要望を頂き、逐次改善を加えて参りたいと思っております。

ご挨拶

会長 伊藤神雄

平成六年度専業	五月十一日	平成六年度総会
	六月十五日	視察研修会
	七月二十九～三十一日	市民まつり
	十月	チャリティーバザール
	十二月	芸術祭
平成六年度執行部役割	四月	副会長 伊藤 神雄
		会長 高宮 一彦 中谷 時男
		副会長 増田美代甫
		会計 千葉 華雄 花柳左衛門
		監査 稲熊 文男 島村 光夫
		事務局長 松本都史子

加盟団体名簿作成・芸文協だより第一号を発行いたします。(事務局長 松本都史子)

「市民、一文化」の推進役に
生涯学習部長 柴田輝雄

習志野市では、15万人の市民一人ひとりが、「生き生きと活動、生活できるまち」をめざし、「一市民、一文化(学習)、一スポーツ、一ボランティア」をスローガンに、生涯学習をとおしてのまちづくりに挑戦しています。では、なぜ、習志野市は、文化やスポーツ、ボランティアをとおして、活性化したまちづくりをしようと考えているのでしょうか。まず生き生きしたまちをつくるためには、文化・スポーツ等の特質が欠かせない要素であることあげられます。しかし、それ以上に大きな理由は、皆さん方をはじめとする関係者が、積み上げて来られた素晴らしい実績が本市にはあったからだと思います。

他の市町村の方々にお会いすると、よく「習志野市は、市民のスポーツや音楽等の文化活動が本当に盛んですね。」と言われる。確かに私も生涯学習の仕事をしていて、その実感を感じます。しかも、その活動している人々が、みんな生き生きとして、とて

第2号(H6.12)

第3号(H7.3)

第4号(H7.9)

第5号(H7.12)

第6号(H8.3)

第7号(H8.10)

第8号(H9.4)

第9号(H9.8)



第19号(H14.9)



第18号(H14.3)



第17号(H13.9)



第16号(H13.3)



第15号(H12.9)



第14号(H12.3)



第13号(H11.9)



第12号(H11.3)



第11号(H10.8)



第10号(H10.4)



第29号(H19.9)



第28号(H19.3)



第27号(H18.9)



第26号(H18.3)



第25号(H17.9)



第24号(H17.3)



第23号(H16.9)



第22号(H16.3)



第21号(H15.9)



第20号(H15.3)



第39号(H24.9)



第38号(H24.3)



第37号(H23.9)



第36号(H23.3)



第35号(H22.9)



第34号(H22.3)



第33号(H21.9)



第32号(H21.3)



第31号(H20.9)



第30号(H20.3)



第49号(H30.3)



第48号(H29.9)



第47号(H29.3)



第46号(H28.9)



第45号(H28.3)



第44号(H27.9)



第43号(H27.3)



第42号(H26.9)



第41号(H25.9)



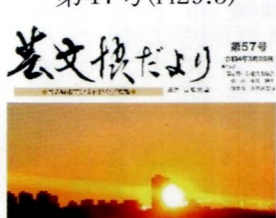
第40号(H25.3)



第59号(R5.3)



第58号(R4.9)



第57号(R4.3)



第56号(R3.9)



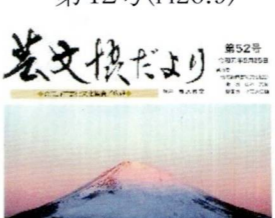
第55号(R3.3)



第54号(R2.9)



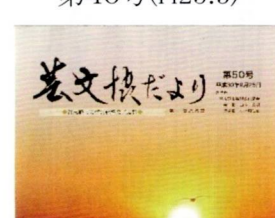
第53号(R2.3)



第52号(R1.9)



第51号(H31.3)



第50号(H30.9)

ルトシリーズ、県民合唱団のレクイエム、東総の第九などがシリーズとして回数を重ねてきた演奏会になります。特に県民合唱団とは、モーツァルトの「レクイエム」(三回)、ベートーヴェンの「荘厳ミサ曲」(二回)、ヴェルディの「レクイエム」(三回)、マラーの交響曲第二番「復活」、藤真のカンタータ「土の歌」、ヘンデルの「メサイア」全曲、バッハの「口短調ミサ曲」など、宗教曲の大作の指揮とオーケストラを担当できたことはこの上ない僥倖であり、一〇年に及ぶ「東総の第九」公演とともに活動の大きな柱となりました。

アルビン・トブラーは、第三の波として「プロシユーマ」という理念を唱えました。従前までは生産者と消費者のようにならざるを得ない存在にいたったものが、主にテクノロジの進歩によりその境目はなくなつたというものです。アマチュアオーケストラの活動もそうなるべきだとの信念をもつて、プロシユーマオーケストラと私たちは名乗っています。団員は客席では鑑賞者(消費者)になり、ステージでは演奏者(生産者)になるのです。演奏者は自分の満足のためには演奏しません。



お客様に感動を届けるためだけに演奏するのです。これからもちば室のモットーを念頭に置き、オーケストラの演奏をとおして作曲家の心を伝えてまいります。芸文協の皆様からのご指導を心よりお願い申し上げます。

第十三回習志野三曲協会演奏会
是木 修 額
習志野三曲協会は琴、三絃が四社中、尺八が五社中所属して

第五十三回市民音楽祭
佐久間 泰宏
本年度の市民音楽祭は習志野文化ホールからプラッツ習志野に会場を移して、九団体が日ごろの練習成果をご披露いたします。入場は自由となっておりますのでぜひお越しください。

令和5年度 市民文化祭

プラッツ習志野市民ホール

- ◇ 第53回市民音楽祭 11月4日(土) 13:30~16:00
- ◇ 民謡民舞大会 11月5日(日) 10:15~17:00
- ◇ 第13回習志野三曲協会演奏会 11月11日(土) 12:00~16:00
- ◇ お囃子大会 11月19日(日) 13:00~16:00
- ◇ 習志野市詩吟詩舞連盟文化祭 11月23日(木祝) 10:00~17:00
- ◇ 第26回琴・三絃園鷹友の会演奏会 11月25日(土) 13:00~16:00

モリシアホール

11月3日(金祝)~11月5日(日)
10:00~16:00 (初日13:00~ 最終日16:00まで)

- ◇ 絵画展(あとりえ菊田・習美会)
- ◇ 華道展・こども教室発表会(習志野市華道協会)
- ◇ 陶芸展(習陶会)
- ◇ お茶席(習志野市茶道協会) 11月4日(土) 10:00~15:30
- ◇ お茶席(習志野茶陶会) 11月5日(日) 10:00~15:30

サンロード大会議

- ◇ 習志野市民俳句会 11月3日(金祝) 13:00~16:00
- ◇ 第42回短歌大会 11月4日(土) 12:30~16:00

第四十二回短歌大会
森 みづえ
昨年は諸事情のため短歌大会を実施できなかったことを深くお詫び申し上げます。

今年度は京成津田沼駅に隣接のサンロード六階で行います。雨に濡れずに会場までお運び願えます。たくさんのお歌、そして皆さんの顔を待ちしております。

第二十六回琴・三絃園鷹友の会演奏会
琴・三絃 園鷹友の会
昨年八月に急逝いたしました故布施園鷹先生を偲び、山川園松作品を中心に、故人が様々な場面で演奏してまいりました曲を演目として予定しております。皆様のご来場をお待ちしております。

市民文化祭 行事案内
習志野市民俳句会
中村 世都
俳句は五・七・五音の世界で最も短い詩です。四季のある日本に住む幸せ、その季節の移ろいを感じながら作句をし、句会で披露しあいます。

当日は秋の季語で二句投句です。初めての方の句会参加は大歓迎です。お待ちしております。

習志野市詩吟詩舞連盟文化祭
三橋 吟 煌
市詩吟詩舞連盟の文化祭は詩吟・詩舞・剣舞を愛好する各流派の団体が一堂に会する発表会です。この団体は、人数の多少にかかわらず加盟できる団体です。

尚、当日会場での見学は自由です。

各団体活動状況

「Suzuki Garphyttan Award」 受賞
影絵劇団夢屋
代表 佐久間 久子

「Suzuki Garphyttan Award」とは、市内東習志野七丁目の日鉄SGワイヤ株式会社(旧社名 鈴木金属工業株式会社)が地域ボランティア活動の発展に寄与することを目的にした地域社会貢献賞です。

コロナもやや落ち着き、中止・延期されていた公演活動も復活の兆しが見え始めた年度初めに、受賞のお知らせをいただきました。今年度は、結成四十年目を迎えたので、ステキなご褒美と、五月八日の表彰式では劇団員一同張り切って影絵劇を発表しました。

表彰式では、米澤社長から賞状と活動支援金三十万円、自社のワイヤを使って作成したバラのトロフィーとバラの鉢植えをいただきました。

影絵劇の上演にはスクリーンはじめ光源、音響など機材の経費・維持費が高額です。そろそろ寿命が近づいているプロジェクトの購入費に充てられます。おかげで、一安心しました。



心しました。恒例の「きくたこどもまつり」も七月三日に再開され、ワークショップ「影絵人形を作ろう、演じてみよう」も大盛況!

この後は、コロナ禍中他県の団体はお断りだった日本最大の人形劇まつりの長野県飯田市の「いいだ人形劇フェスタ」にやつと参加できるようになったので、八月六日に飯田駅前の丘の上結スクエアで、おなじみの飯田市民と日本中から集まってくる人形劇仲間を対象に四十年記念公演として開催する予定です。

菊田公民館の講座後に結成した際の劇団員で現在残っているのは五名ですが、その後

習志野天文部
「おともがたり」
習志野天文部
部長 越田 美和

近所の友人と飲み会!とかいうのはよくある話で、私たちも十年ほど前、そんな感じで駅前の居酒屋に集合したのです。その日は昼間に金環日食があつて、うまく写真が撮れた、とか、ダメだった、とか、実は子供の頃宇宙飛行士になりたかつた、とか、そんな楽しい話で夜遅くまで盛り上がったのを覚えています。

「習志野天文部」はそんなふうに生まれたのでした。

私たちの職業は音楽家でしたから、十年の間には居酒屋にいただけではなく、みんなで演奏したりすることもありました。少し困つたのは楽器編成で、ヴァイオリン、チェロ、ファゴット、ホルン、ピアノ、シンセサイザーという六つの楽器で演奏する既存の作品は無かつたのです。作曲家に依頼して新し曲を書いてもらう、というアイデアも



あります。現在は二二歳から八九歳までの影絵大好きな老若男女十五名で継続できています。受賞を機にコロナの緩和も受け、更なる活動を頑張ります。

出入りがあり、現在は二二歳から八九歳までの影絵大好きな老若男女十五名で継続できています。受賞を機にコロナの緩和も受け、更なる活動を頑張ります。

ちば室内管弦楽団は一九八九年六月に産声を上げました。今年度は五十五回目、五十六回目の演奏会を予定しています。令和五年度に習志野市芸術文化協会への仲間入りを認めていただき、多くの加盟団体の皆様とお近づきになれる事を大変光栄に思っております。

芸文協だよりへの活動状況の掲載の機会をいただきましたので、現在までの活動を振り返って参ることにいたします。一九八九年船橋勤労市民会館で第一回目の演奏会を行いました。団のモットーは「とどけたい音楽の力、世界でひとつだけの演奏をうです。演奏会場は習志野文化ホールを筆頭に、船橋市民文化ホール、千葉県文化会館、紀尾井ホール、かつしかシンフォニーヒルズ、ルーテル市ヶ谷ホール、千葉県総文化会館、白井市文化会館と演奏会の形態に合わせていろいろなホールで公演をしてきました。ベートーヴェン、ブラームスの交響曲シリーズ、新人演奏家を発掘するためのニューアーティストコンサート

とどけたい音楽の力 世界でひとつだけの演奏を ちば室内管弦楽団
芸術監督 高橋 利幸

第三十九回 芸術祭を終えて

習志野市芸術文化協会
副会長 小笠原 仁仙

コロナ感染の嵐に翻弄されて三年が過ぎ、芸術の花が咲き出し、各団体も前向きに活動を始めております。本年度の芸術祭は、長い間お世話になった文化ホールが、建て替えの為使用できず会場を、モリシアホール・市民ホールへと移し開催されました。

第一会場(四月十六日)市民ホールにて、洋舞連盟によるアロハ・フェスティバルin習志野が大勢のお客様にお越しいただき華々しく開催され大盛況の内に終了いたしました。

会場の関係上、入場制限がありご迷惑をお掛けしましたが、次回は船橋市民文化ホールをお借りし開催予定でございます。

視察研修参加者募集

久しぶりの研修旅行を堪能された昨年の報告に期待が膨らんでおられることと思います。

今年も歴史に名高い富岡製糸場と、昨年好評を博した美術館を再度と群馬の森公園の近代美術館を計画致しました。昼食は「たちばな源氏庵」のそば・うどんを、お買物はこんにやくパークで楽しみましょう！

たくさんのご参加をお待ちしております。

日時：十一月十六日(木)
行き先：群馬方面

・富岡製糸場
・こんにやくパーク
・群馬県立近代美術館
会費：八〇〇円
募集人数：三十五名
(森 みずえ)

習志野俳句会

●松籟や墓所のみどりのしたたるる 操

●健やかに曲るきうりのいぼ数多 真理子

●紅薔薇や吉屋信子の記念館 昌代

●仏花抱き梅雨の東北線に揺れ 弘子

●雪溪にアイゼンの音沢の音 武

●凌霄の炎が飛び火してをりぬ 武雄

●鬼怒川の築を銀跳ぬる跳ぬる 藤香

●打ち終へし花火師に月あはあはと 世都

●片足を上げて見得切る夏芝居 恵

●はんなりとうなじに添へる汗拭ひ 和

●九十歳のピオラ独奏夏の宵 歌子

●玉砂利を横切る巫女の汗の粒 明美

事務局だより

芸文協だより第六十号発刊にあたり「芸文協だより三十年史」として過去の各号の表紙を掲載しました。長い歴史に想いを馳せ、寄稿いただきました多くの会員の皆様のご協力にあらためて感謝申し上げます。

また、この春からの習志野文化ホール長期休館に伴い、春の芸術祭、各団体の定期公演を他の会場で開催されてますことに、困難の中でも継続を願う勢いを感じております。事務局では、ご相談に対応できますようお待ちしております。

(三戸 良子)

編集後記

日本列島も日本海側で大雨洪水に見舞われ、他でも気温が三十九度以上が続く、これって異常気象？これがあたりまえになって来たたらたまらない。外出だって儘ならない。

新聞にこんな記事が載っていた、「絶望名人カフカの人生論」で他人と付き合うのは苦手だが、誰かとながってほしい・・・こんな考え筆者だけかと思っていたが・・・芸文協だよりも皆さんとながっていただけたらこんな素晴らしいことはない。

(杉田 英男)

新年会員交流会案内

昨年は三年ぶりの交流会の楽しい様子を芸文協だよりで読み、今年を心待ちにされている方も多いことと思います。次のように予定致しました。皆様で新年をお祝い致しますよう。

日時：令和六年一月十五日(月)
場所：ホテルグリーンタワー幕張
会費：七五〇円
(森 みずえ)



は、野点で傘の下茶道協会による立札席、茶隆会により趣のある茶室の仕つらいと四年ぶりで味わう茶の奥深い心と茶の香り、心穏やかに静かな時間が流れ会場一杯に伝統文化の灯が満ち溢れ素晴らしい会場となりました。

又習陶会によるチャリティーバザーは、モリシア津田沼一階センターコートにて五月十三日～十四日迄開催され、売り上げの一部を社会福祉協議会に寄付をさせて頂きました。

この様に会場が分かれ不安の中での開催でしたが、皆様のお力添えで無事盛況の内に終わりましたことをご報告いたします。皆様のご協力に心から感謝申し上げます。

習志野市芸術文化協会事務局
〒二七五〇〇二六
習志野市谷津一―二六一―
習志野文化ホール内
☎&FAX 〇四七(四七五)六八二―